

第 4 回総合戦略推進アドバイザー懇談会議事録

日時		令和元年 8 月 2 日(金) 10 時 00 分～11 時 30 分
場所		市役所本庁 2 階 第 1 会議室
委員	出席者 (敬称略)	【産】(株)フジイ代表取締役 金森 薫 【官】岐阜県男女共同参画・女性の活躍支援センター長 原 永子 【学】中部学院大学短期大学部幼児教育学科教授 杉山 祐子 【労】ハローワーク美濃加茂所長 山下 保 【言】みのかもフリーペーパー歩好里人 安藤 摩里
事務局		企画課 課長:斎木 係長:井戸 山口

1 開会

2 あいさつ

3 令和元年度 カミーノアクションプランの改定について(資料 1 を説明)

【事務局】

- ・地方創生推進交付金を活用する3事業を追加するのみの改定を行う。
- ・移住して暮らし始めるための支援については、補助金だけを記載するのではなく、情報発信、相談会の開催や空き家バンクなど、事業全体を記載している。
- ・第 2 期のカミーノアクションプランにも位置づけることになる。
- ・交付金の対象期間は基本3年間となる。

4 追加資料について

- ・第 2 カミーノアクションプラン事業(案)一覧
- ・第 6 次総合計画の基本構想・基本計画

【事務局】

- ・50 事業が候補となっている。青色が新規、橙色が内容等の変更がある事業である。
- ・担当課との事業の調整では、地方創生の人口減少課題の克服につながることを大前提とし、市の特徴的なことや発展的に実施できることなどを確認している。
- ・ライフスタイル「自分らしく生きられる」のワーク・ライフ・バランスの言葉を、プライベート・生活があつての仕事であるとの思いから、ライフ・ワーク・バランスとしている。
- ・次回以降に、これまでいただいた意見と合わせながら、必要な事業や内容を確認いただきたい。
- ・第 6 次総合計画の基本構想・基本計画は、先日答申を頂いたところである。その中の女性若者活躍がカミーノの上位となる。
- ・総合計画においてもワーク・ライフ・バランスをライフ・ワーク・バランスとして統一した。

【アドバイザーからの意見】

・ライフ・ワーク・バランスは固有名詞の扱いとなることから、間違っているものと思われるようにするための補記が必要である。

5 意見交換

【アドバイザーからの意見】

(子育て)

- ・子育てする場所に対する親の感覚が変わってきている。今のお母さんたちは外で過ごすことが嫌になっている。
- ・遊べる場所よりも、時間を潰す場所として、何か買うわけでもなくショッピングモールに行っている。お母さんが集まる場所はショッピングモールである。特に、フードコートは長時間話ができる場所、食べなくても過ごせる。
- ・孫を育てる世代も、連れていく場所はショッピングモールが良いとなっている。安全で、空調が効いている。
- ・子育て支援施設などの駐車場が広く整備されていると行きやすくなるのではないかな。
- ・お金をあまり使わず長時間居られる場所を望まれる。
- ・中部学院大学の各務原キャンパスに子育て支援センターラ・ルーラがあるが、大学の施設内にあるため、駐車場も多くあり、雨にも濡れない。200 円で朝から晩まで過ごすことができる。学食が利用できる。学生と交流ができる。ショッピングモールに行く人たちがセンターの利用につながるようなものがあると良い。
- ・山之上交流センターのような場所が各地域にできると良い。自分の家に近い場所だけでなく、日によって順番に変えて行く。
- ・無いものをつくるだけでなく、多少不便でも今やっている場所を PR して使ってもらうことも大事である。
- ・公民館などの今あるものの活用が良い。地域内のお母さん同士や高齢者と繋がれることが大事。
- ・様々なアレルギーがあり、外で遊ばせることに困難を感じている親も多いため、室内で快適に過ごせる場所が望まれる。
- ・空きスペースを活用し、遊べる道具が置いてあると良い。
- ・前平公園は運動ができる施設として残し、お母さんたちの室内で快適に過ごしたいという施設は別であっても良いのではなか。利用の差別化を図れば良いのではないかな。
- ・加茂農林高校の活動取材したが、良い取り組みをしていることをもっと発信することも魅力を伝えることとして大事であり、就職・定住につながるのではないかな。
- ・カミーノアクションプランの事業のキャッチコピーに、理想の保育環境を・・・とあるが、何が理想なのか定義をしたほうが良いのではないかな。
- ・障がいの子どもがいるお母さんが働くことができるためには、安心して預けることができる場所があることが大事である。
- ・岐阜市のエールは、健康部局と教育部局の職員が一緒になって0～19歳までを対象に、支援している。

(教育)

- ・グローバル人材の育成において、外国人の子どもたちが日本語を勉強する機会は多いと思うが、日本人の子どもたちが外国人の子どもたちに触れて一緒に学ぶ機会が少ないのではないか。一緒に遊ぶだけでも良い。
- ・日本人(子ども)が外国のことを学べる機会を増やすことが大事。
- ・英語教育が小学校、幼稚園・保育園までやっている中、コミュニケーションツールが形成できる環境にある美濃加茂市は先駆的にできるのではないか。言葉が通じてコミュニケーションが取れることが大事である。
- ・勉強会というよりも、一緒に遊べる機会をつることが良い。則武ビルで月に1, 2回程度、違う文化が学べることができると良い。
- ・たくみアカデミーという素晴らしい施設がある強みを活かせると良い。
- ・外国人の文化触れた子どもたちが大人になったときに、来られた外国人に対しても上手くコミュニケーションが取れて、受け入れることができる。外国人の孤立が無くなる。
- ・野沢温泉は外国人が長期滞在することから、高齢者に対して英語教室を無料で行っている。